

# 【校長室便り】

No.46

平成30年2月8日(金) 土佐町小中学校 谷内宣夫  
先日、本を読んでいて、「いい話」と出会いました。  
私は親として見習いたいと思ったので紹介します。

## 「ごめんなさい。もうしません」

文筆家の有吉忠行さんは、ある小学校を訪ねた際、  
目の当たりにしたでき事を著書で紹介しています。



その日の最後の授業が終わるころ、三十代半ばの  
母親が学校へ駆けつけてきました。やがて授業が終わり、  
担任の先生が廊下に出ると、その母親は「すみません。ち  
よっとうちの幸介に合わせてください」と頭を下げて  
教室に入り、クラスの子どもたちにもこう言いました。

「皆さん、私は幸介の母親です。この前の日曜日、この  
クラスの数人の家を訪ね、何度も頭を下げて幸介のこと  
を確認しました。幸介がこのクラスで4人くらいの方へい  
じめをやっているということです。…幸介、ここに来なさい」

母親はわが子呼び寄せると。きっぱりした口調で続  
けました。「あなたがこれまで、いじめた方のお名前を一  
人ずつ呼んで、これまでのことを謝り、それからクラス  
皆にも謝り、先生にも謝り、みんなにこれからは二度とし  
ないことを、ここではっきりと誓いなさい。  
あなたが誓うまで私はここを動きません」



観念した様子の子どもは、4人の友達それぞれと、クラ  
スの皆に「ごめんなさい。もうしません」と、素直に5回  
頭を下げました。先生と自分の母親にも同じように謝りま  
した。



すると母親は涙を流しながらこう言ったのです。

「皆さん、本当にすみませんでした。」



特に4人の方、申しわけありませんでした。

幸介にこんなことをさせた責任は私にあります。

人は一人一人姿や考え方や、することは違っても、人間  
であることはみんな同じ。これを忘れて勝手に人を差別し  
たりしたら、幸介はもう人間ではなくなる。このことは、

何度も何度も言い聞かせてきました。

でも幸介は、いつもわかっているといいながら、

何もわかっていなかったのです。



今、このクラスの中で幸介が一番最低の人間です。

でも、私の子どもですから、どんなことがあっても幸介  
を信頼しながら、人を差別しないような人間に必ずしま  
す。子どもの心を育てるのは親の責任ですから。

私は、幸介にいじめられた方のことを思うと、いつまで  
も涙が止まりません。心からお詫びいたします。差別の  
ないクラスを作ってください。そして、もし幸介がさっき  
誓ったことを守れるような人間になりましたら、幸介とも  
付き合ってください。お願いします。」

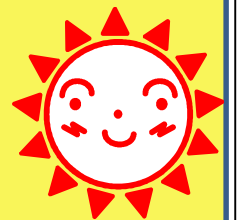


参照：有吉忠行著

「素晴らしい母親の物語—母と子の感動四十二編」(モラロジー研究所刊)

失敗することは誰にもあります。その時にどのような言動  
をするのかで、人としての価値が分かるのではないでしょ  
うか。言い訳を繰り返し、他人のせいにし、自分で責任を取ら  
ない人に出会ったとき、本当に不快に感じるだけでなく、哀  
れにも思うのは私だけでしょうか？

この母親のように潔く「親としての不完全な自分」を認め  
て反省するだけでなく、過ちを犯してしまった「不完全な子  
ども」に立ち直るきっかけと、人として大切にしなければなら  
ないことは何か、をしっかりと自分自身の



後ろ姿で教える姿に感動しました。

親としての覚悟が、幸介君に伝わり、

素直に自分の非を認め、反省して自分の



言動を正していくことができたのだと思います。

このクラスの全員が「大人って凄い。カッコいい」と感じ  
たのではないのでしょうか。



このクラスはそれから、皆が失敗しても素直に認めること  
ができ、クラス全員がお互いの個性を認め合って、より良い  
人間関係を築いていけたのではないのでしょうか。